

芝居津九巴

特別
~ 5
6086
4







特  
A5  
6086  
4



鷹野集卷第四

沃崎善右衛門 茂昭



常<sup>とこ</sup>たも<sup>と</sup>祢<sup>ね</sup>だ<sup>だ</sup>い<sup>い</sup>り<sup>り</sup>乃<sup>の</sup>唱<sup>な</sup>外<sup>げ</sup>  
お<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>も<sup>も</sup>又<sup>また</sup>花<sup>はな</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>蓮<sup>れん</sup>外<sup>げ</sup>  
善<sup>ぜん</sup>言<sup>ごん</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>熟<sup>じく</sup>解<sup>かい</sup>  
石<sup>いし</sup>山<sup>さん</sup>寺<sup>じ</sup>は<sup>は</sup>春<sup>はる</sup>乃<sup>の</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ひ  
菰<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>ふ<sup>ふ</sup>紫<sup>むらさき</sup>志<sup>し</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>ほ<sup>ほ</sup>み<sup>み</sup>そ<sup>そ</sup>て  
あ<sup>あ</sup>せ<sup>せ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
夕<sup>ゆふ</sup>立<sup>た</sup>い<sup>い</sup>せ<sup>せ</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>れ<sup>れ</sup>せ<sup>せ</sup>ほ<sup>ほ</sup>合<sup>あ</sup>て  
お<sup>お</sup>そ<sup>そ</sup>ろ<sup>ろ</sup>志<sup>し</sup>れ<sup>れ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>た<sup>た</sup>  
人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>  
了<sup>りょう</sup>祢<sup>ね</sup>の<sup>の</sup>志<sup>し</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>ほ<sup>ほ</sup>み<sup>み</sup>そ<sup>そ</sup>て

46 4846





ちいさな舟よ河へそ入ぬれ  
湯わりの水は縁りにあれて  
細工仕物よ目成えぬあり  
ふかあれ中ふくあれゆ所  
みおれぬ舟はうらふあうみ  
ゆりや志望れり難成母につも  
ゆりよ何れうらうら三人  
供乃のよはせつまはあはれ  
寺のあはれ海の新りたるか  
びくは優りあそむあはれけ  
お寺ありれいもちあはれ  
うゆのゆわむくみてもははれ  
野村治はあつ 孝貞

東風よあつる葉よや去業  
おらせりと割れくそ名の竹  
天下(あめ)いとあはれ月(つき)の星  
ゆりよ何れ日教や甲八たき

権左兵衛 康寅

吉忠

きりあやどのねははれむら  
うらやこもけいもあはれ  
目教へてやこもあはれ業  
名水塔  
葉のあはれかづるあはれ  
十三夜月をみりあはれ  
ゆりあはれあはれあはれ



あさしきあしきあしきあしき  
十。ふあふあふあふあふあ  
おちおちにおちおちおちおち

毒六共毒一能

荊根の音風うあふう風  
小田を渡せとやありく病付え  
あふよりあふ水あふふや  
酒田とありて餌はふじ露は  
一筋おれぬの歌はうらうけ  
虎ふりあはりのてむ人利  
海古とも月おれあふあふあ  
わえれあふあふあふあ  
あふれあふあふあふあ

ち師のあふあふあふあ  
遠こもたきそわあくあふあ  
蝶掃書に死んで乃けうら

務業

三。ふあふあふあふあ  
枕と粟粒成えんあふあふあ  
春ふあふあふあふあふあ  
九日れあふあふあふあ  
羽長の月おれあふあふあ  
ふあふあふあふあふあ  
月足けあふあふあふあ  
すああかけひのあふあふあ



垣もあまのうらみはらわらうけは  
海あまのうらみはらけしは  
硯をいそそけしこころ丸  
月ふししそそけしき  
卯入時の別紙今もあひま

重規

かりの縁いふまはくへゆりん  
産成そせそわらうれみ字  
こころいそそきものそそあれ  
いぬたやそそれそあ  
我う者いそそれそあ  
つまらうそあそあ

君は約よとの取返しきれそそ

いり市をきつ 車運

世はうらみようあまたそあ

我う者いそそれそあ

よりあそそけしそあ

船波入めになれれそあ

あうそそれそあ

竹のうらみ入しそあ

あそそれそあ

あそそれそあ

あそそれそあ

あそそれそあ

但馬出石



花とれてこに似ぬ西粟粒のこも  
おもせて火花やおれも乃竹  
秋の序の菊も志小のり花電  
鳥の鳴きや鳥にわかれぬ数  
おのたし月より露の玉みさ

荻原小七郎 貞勝

月が空に雲おけさう秋のけ  
ちくちくもれと花枝やれへ  
見よ魚と竹枝漆くう大橋  
糸よりとある魚の程をま  
奔克市やせありしおと網  
うれて勝成立れりけ地  
物針お指鯛の喜ぶらひかけ

よははこれいさうちう橋  
けつうか刀はこれいさう  
んて志れ四十二乃役  
三五七奇れ下の句禰師七  
里小八市を并いひらた家  
野の家成をいふもよ書ゆん  
ふりといさう田わしれ物  
昔人うてれ基らんいさうあ  
いさうは是佛あう  
刀あれ不動の梵字は夫とて  
格玉はたがらいつうと心  
寺うてれはまたび立入り

安井 正親



こゝろまじりついでにさうやなさま  
たさくもも髪たわむ風あわり

小林西の巻 宗儀

太息れ繪もわりくさうつし

あはれしうおひふまけん

子秋おと寝ふれ夢想

整久の病の合はたまうりて

果実の巻 奥社

いしきききききききききき

あはれまけ人のいりりも

平野の巻 三友

あつ人も花おをさうり

あつ人も花おをさうり

土山巻の巻 惣成

目小けて目うおあもやまてん

いん声とあふくはや響け

本小餅のあもやまてん

尚良

秋の野人高人おはなあひて

うくやみ分れ虫のきくうわ

あしのはねとらおはあて

又いほやあがりやららま

田中巻の巻 重雅

あまは花をゆふいひん様うか

あまは花をゆふいひん様うか

あまは花をゆふいひん様うか







足の子あはれをれうへに  
難波江ようはうりま甲貝

秋田一巻 双巻

女房田の元れ字をわやうこよみ  
えりれらるうらや病はまき

寺秀

おのれ深村よ漁くく魚子

夏あみしころの何奈ハ哀ふて

松山 忠儀

うらむれ草や花はの春  
ちれは咲花ハあきら辛夷か  
春きこいやあうくや時鳥  
梅書に火海しきそやゆり草

小男鹿原あがらあはれを海

腹たてともれくうらわ

こんばあはれふく今うらわ

歌今昔集 次

常れぬ風や花は味方うら  
柴梅ぞとくそあはれああこ  
彼れまんふらあはれあわめ  
うらていふはあはれかり衣  
灯籠あはれようあはれあまうり

橋本あハ 泰全

見あはれあはれあはれあはれ  
かたけはあはれあはれあはれ  
奥ふそあはれあはれあはれ



漢本勅書門 宗祐

鞠子花成之

高くと峯に咲りや天物花

彈中よ孫巨の馬也

河ふふよ彈中ぬれ花の海

玉露や花とくともくも水化花

荻若喜三利 貞利

高くと峯に咲りや天物花

玉露や花とくともくも水化花

三紗の花は成りし子

あれくと実成りよ栗乃木

球ふしやいとくもや大回

みられぬと実成り張つて

丸右馬 於久

わろくと月影ありて心もろ

川邊津屋つ友也

夕まやたぐ一ありれりやの心

名らりあう怒りや乃四知

情成りて樹言もしりるりふ

と針槍共重 重継

あけやや七七八く教ちりり

まうつあけとそつりや風雲

や林やうと花也

お梅のなまき新くやそれこれ

葛原 重政

けとみんあけ十八七角り



又 四月の夜もいづれ人のたつこ  
女師苑むせれや雲のら月東  
雲成礼の行るうせ教をい

女師苑志事 連之

美成を承りて又

あつえまもふあついのうえは  
まろくして焼かう風きれ枕梅  
山顔の躑躅やかもし赤うら  
人丸乃魂とぬやまきり老海  
月も人も十を花の盛るふ  
あらもかまひらきこらうり者  
かまひらきこらうり者  
流し年功盛れんあまうこあり  
小町あもむば打きりふ大報

る葉しうい多みえすれ

袖あしれを服のせほわけりそ

をぬてうもこあつれあ

けうまうい女の日女ぬこ小脇こ脇移

こふよんをせれ実をうあ

せしむれあうのゆりうひらか

小門法普集 高法

思の月れ光り月乃大江やま

ちま名月よ

大豆わくと月夜をむんこ山外

本法寺 実継

たふら花とりてうさ日草

瓶びん多よ秋やぶくくあ枝柳



田中玄心

笠原山波流のつ下やたん袋

依保乃道まてうきおし文

もろききうがういぬき草外ぬ

唐と目本れ物うたらうれ

移りまぬやいねとあく次少袖

浦井勘吉書 吉泰

大豆あて目吹やうの月見

蒙よふれ巻や織うき白袴

村山治吉書 重俊

日かありれ綿く柳極外

夕月あつた成あつたは海外

日かたすまてこ富ち風たより

三つんのうかきまきまうねん

右川傳吉書 如玄

掌れたる一声ハ短音一外

ひらあて花乃つきたなぬ梅子外

車座まてわうたふ声く

とめん糸うらねを打くまき

あせのしとずりもみぬる外

何れれんきじいさうくふいも

勝之

路の此様みみく

うとたし〜控めうはたうこ移り柿

毎三三書 重友

おろか君ていりもろあうまひるまび



ほろろう唐ふいふくろ二重に重  
曇るはあはくまら禱の毛たうふ  
比やとみぞれあはれ酒をま  
あまら教乃らばんさ御一さ  
あつた館宿れまきく乃さけ  
目費ふせりはまうしやり也  
京清うがらり成地れごこはる  
いえいさん通の坊秀海  
遊吾有座  
所うあふらふそと入り霜粒  
たまふ教首は成りかへ  
あつたてられ成成二交らふ  
人さうたふんもまらり  
移やひくさばふそて飢まら

伊勢守の集 政盛

正の芝蔭ハこれそ糸柳  
子軍とい毛は少くも成る海大  
今お川七あま 正重  
産波棄せんごもあやうん  
それららむらちき心梅つけ  
あ村惣あま 宗久  
寺ふびくふ南世は業あれや珠ね  
むらと花ちりあられ新川  
かじりりま風いふ橋の上  
伸以風のうふまらりれ  
たふ城もた日よあれあきた  
あふれあふらねや日記

中

廿



神前花舟のそばに宿されて  
任へ終て其又身地るるわかれ  
折紙のいそがしむのいびり

かいらふらふらふとあきらむら  
柳編の縄ともほろくちあめし

あなまの上紙花やそりく  
先陣も何となくどや揚軍

ふりくちそや巻花引神  
おそらもかかえり越る河毛る

小野次 安信

山口の雪の志を流つ下 お祭

舟のりあつとあつあつ人  
紙国舎のし許海のよむ書かへよ

せあふふ版はくし連もせん

侍書成れはひても名へ儲けひる

真と増とれ福八由人あり

に乃まはかざれ成るひらうこひ

かこあまは家の道ふはひて  
咄とよ免ふ又字成えよまらん

山川有奇馬 長元

世系おこやむま集まよふ草

月の為や并海よりたぬあふ

人の目ふらりり月か白く外

大君や其座あきらにつきぬん  
かこあまはけしおまゆらん

松橋 利春



縁ありし〜のなか

サ

五

おのゝちの東にまてあはれん

おきこひておもあはれしに

お伊勢はらに歩にあらぬあ

とらたたら〜暇をそらら

あししきまににぬるうんあり

年あひ〜うすまきぶんのあきけし

遊のきりけみそぞぬあ

こづり〜とらよともあはれ

あはれぬあまの〜こは

かま〜にもあひかこもあり

釣糸にて〜成るれう文殊より

馬政陳あ〜はるま

大等あ〜んまはるはとやえ

流〜まてあ〜はりあり

いらのまよ〜らぶら〜の

松林り〜縁〜もたま

年よ〜れ小使もあ〜の字

うめ〜れあ〜ら〜あ〜こ

〜あ〜れ〜ら〜あ〜ら〜

〜あ〜ぬ〜り〜ら〜か

きはまの〜め〜あ〜ら〜ま



けり舞や花よりあな様 観  
 蝶もはなより宿あれや家様  
 火花ちりいづく有月も花堂  
 色まひくむららねいりおくり花  
 西の月おきくは花よりうか  
 か家田おひさありは花よりひひき  
 林次おきつ 利勝  
 らくさめた縁を揺ゆをそ様  
 うりしちや雨霧は思てもおり境  
 たいさくはあへて目かには種田外  
 書てりよは花えんやそれたたの  
 唐と目か花よりひまうらりし  
 門書然らつるありにさきこえん

けり七おきくふもておけりさ  
 来乃花非ゆんまこは枝あん  
 打それしぬる木るは麻衣  
 んおやうおおんち大轡はら花堂  
 日影はくひてひひたつたわ  
 うゆらりたてはき流はぬ我せあ  
 せんあき事には花は花ぞひら  
 病とそむきよとよとく中風やま  
 中に立よけ人ハソおも乃  
 賣もまけ買大みえぬるれた家  
 こしは花よりいんの本事やおき  
 通居もあく作係浦一屋船  
 きいこい手もあつた道



の書小座氏こざうじのよき家大和守  
守身しんみたは家つぎ瑞みづの香  
高寺たかてらこれに得ぬ家学ががく又而  
款くわん成なりありよまされあ井い之  
佛ぶつ従したがも空くう入いれこれ龍りゆう生せいあて  
かきく来きたは運うんとをを助たすり  
負おん傷やけけされもににうらん  
加か次じ身みあ家け人の世よ乃の中  
も一いっ書しよ尺せきと入いれ雲うん竹ちくの旨あじ  
妙めう覺かく寺てい 知ち足そく  
ま家まけ雲うんとよふは毛けて袂たもと筆ひつ外がわ  
六十ろくじゅう計けいこれしういし  
一いっ町ちやうの田でん乃の而にけんちれおあま

形かたち打うまは家け身みたかきるも  
腕うでの侍さむらい乃のち靴くつハ梅うめ子こまき  
然しからう海うみよ入いれあひなれ  
まうかも攻せうの墨すみ成なりはりうじ  
女めのそはふあこあひそま  
妙めうの家け成なりはりうじ  
かいらあ火かとわらうまにん  
佛ぶつ前ぜんふちを玉たま磨らはる年としに  
大だい八はち十じゅうとらひ教きょう成なりけ  
法ほふ苑えんの果くわいも皆みなあひん  
竹ちく末まとる昔むかし末ま後ご次じ  
焼やけりる花はなや百年ひゃくねんもほむらみ  
花はなハ史し總そうらひせりしははに外

十五



重時

善悪ふ二をけつて人

しをばむし一城よりあふさる

まのあまのちかき又川のうこ

宇治磯田の戦ふよかりは利

少ねや思人の例よまのむし

ゆきもあふれ秋の源川

伊香志麻呂 貞玄

大物もあふれや苗も自在答

種舎ふよとやははるりや

やこれ世はあつたはたゆら

浮書へねもさしたるおらひ

冬もくがは所へたんとん

吳國乃軍志所一とあり

見きたりもあふれはるる

ぬれ昔事 正明

目乃ころにあふ佛らふり

花もふらふつたはぬらん

飛乃腹はしりてそん

わこれあふれあひあれ世にか

まのこみおけり油うりけ

覆はもそたふれはるる心

村吉なまろ 俊安

らてあふれらあふれ

長風ふもあふれはるる

わさく我うあふれはるる



杖の束し台いとぬけさる勢に  
所は成羽衣かひり天津彦彦  
麻うしか十六のいた潔く此矢  
きて見ゆひつて勝も志くぬ茶  
鞠あてぬ乃ううもや葛袴  
下戸流も菊海こそやすしやひ  
らあみよ書法あり入家小菊外  
大上戸かてもああわりの月夜  
お菊に匂ひもかた相の木  
神くは菊ちやらん舞にふ時ぬ  
池にたぐり書とあは氷うか  
共文書とゆりもあや思ふん  
地震乃とれいたまきし建忍

はまきね物にあがむ人あう  
古形小菊舟以ハ大おにて

唐徳吉書集 賀屋

あつも目かこら東あややう外  
若そ二のあは木のたれ地獄うか  
冬移り八塔うんだんの花うか  
庭はう移りぬき人志と志う  
はまきまう移りし極まて  
しーおひてたらうれつとさ  
三うんより汗流るるるぬき事款  
は秋よ雨和のおあり紙中後  
掃地流たれ柿乃木れか  
西のゆき書人志と志う



ぬらみぢもあつれやきん虎の皮  
香炉の風乃らそふくもこれ  
秋いたまの秋お茶のまうたる  
はまの秋ゆきもこれなる  
はいあんよあふむのまの年の人  
越り上人あふくおさうり  
柳てお舟の柳乃海にこい  
松乃新まうあかりさうり  
目乃おれはまう芳あひたし  
まあふくえなまうさうむ  
くくくおあふおあらの人  
みろりくおむ肉陣  
お勝おはまうまの仙あて

終三

素てころも大らおあは  
最もお白く代杜あ

貞田丸無茶改之

残梅はやくとびう花の氣  
氣力もあまそそかふ柳  
たまのぬハむもまの花の露  
まろく咲ぬ馬あやまらまう  
白川くわく水鶴やうたき  
友のあハ半らあれも月あ  
う花乃おやれ乃ら総を甲  
お船り一やにられ川柳  
茶湯おあふあたてれ玉あ



伴登乃海の月れれぬやいそ人艘  
うへん金うかふのれれはにさめ  
三ヶ月也是天上乃より 始

八月十六日福へ書綴して

秋の奈と鳥や深時の夜生會  
毛あそて元新瑞やち平吉

竹るふ葉ぬる中成のしあて

もやしたてりうたふ百多

あたらひあ日におかき人へ

漢り城一入下るやまのあん

書こもろたふぬきりうすれ

武都城はろくのうれはいせん

中村虎脚 書

咲りけれ梅ハやこ子う花の先

犬子集

山海の除物ちんやぬき射貞徳

名者あてはる

过切あふるも夕くらん風

むもたじのぞく免うつ風

虫風ふあふ海霧は花もさく風

足がれあふ雲書消ふふ心片

空は移る縁糸の月乃さる嵐

原良方書 吉信

玉掃乃念掃のあれもあたまがけ

平吉書 可成

秋乃神よりうたふ夜

おぼろ月毛足平の越後馬



伴登乃海の月れぬあやかしん艘  
うへん金うかふのちれはひさしめ  
三ヶ月也是天上乃より始

八月十六日福へ書綴して

秋の奈まほや深時の夜生會  
毛あまそえの磯やち平吉

作るふ業めり中成のあて

そわしたてりうたふ百多

あたらひあ日におかき人へ

浪り城一入下るやまのあは

書こもろたふぬよりうすれ

成花はれそこのうれはいせん

中村虎助 書

咲りけれ梅ハあこ子う花の先

山海は珍物あまもやあけつ綱

るそ免て風成がせわす初

辻切あふもあふらぬまら所

むもたひのぞ免うつあ風あ家

あ風ふあふああ花あさう風

あがれああああ酒あふあ片

あはれああああ月乃あらん嵐

原良方書 吉信

里掃乃念掃あれあああまら

平吉書 可成

秋乃神よりうかあは夜

あふうう月毛あああ越後馬

あふうう月毛あああ越後馬



わら成たりき人乃よりうが  
料理も出来たりん 餅をま

松古

行はる花も梅乃以十程

貞治

神もたら成るもくゆらめり

夕立乃事ないうらうらひて

あ成らぬぬ大佛もいそ

をこあひの牛ま成る也二月堂

世寸

曼 たるうこや成るはふた今

玉次

梅も花乃まも立所て也

為んもたひあひも花も春日山

をたうらあ成道んう何まうん

好いも成あら大とあひ量外

山乃場や大豆名月けりか

やまけ成もふこえてもあらは

井上専利重

今日より花を以通を牛乃以

友懸や五神 車安

長宗ありふまうられ物

花深乃少袖ふも成あきりて

布きねも天れ川あはれん

所のおこにこもきやうげん

友不久参末 重成







長宗ももさうにあらじえ方外  
こころなき物もあくるうあ終  
うけそしうやのよ小版栢

大河孫三郎 務貞

あやふら先よおはわらうま  
あ作のうたをくいらくとうみで  
あふもおはわらやあめん  
いこももわらわらを麻於はて

後志守吉

風らもあささうぶさぶらうらハ

勝次

とらふもあはあはいけいさ

時あももあはあはあはあはあは

有居治兵衛 親存

あはあはあはあはあはあはあは

有井勘兵衛 利志

吹六枝も風打あはあはあはあは

吹あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

吹金川百重けりあはあはあは

山崎三右衛門 正朝

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは





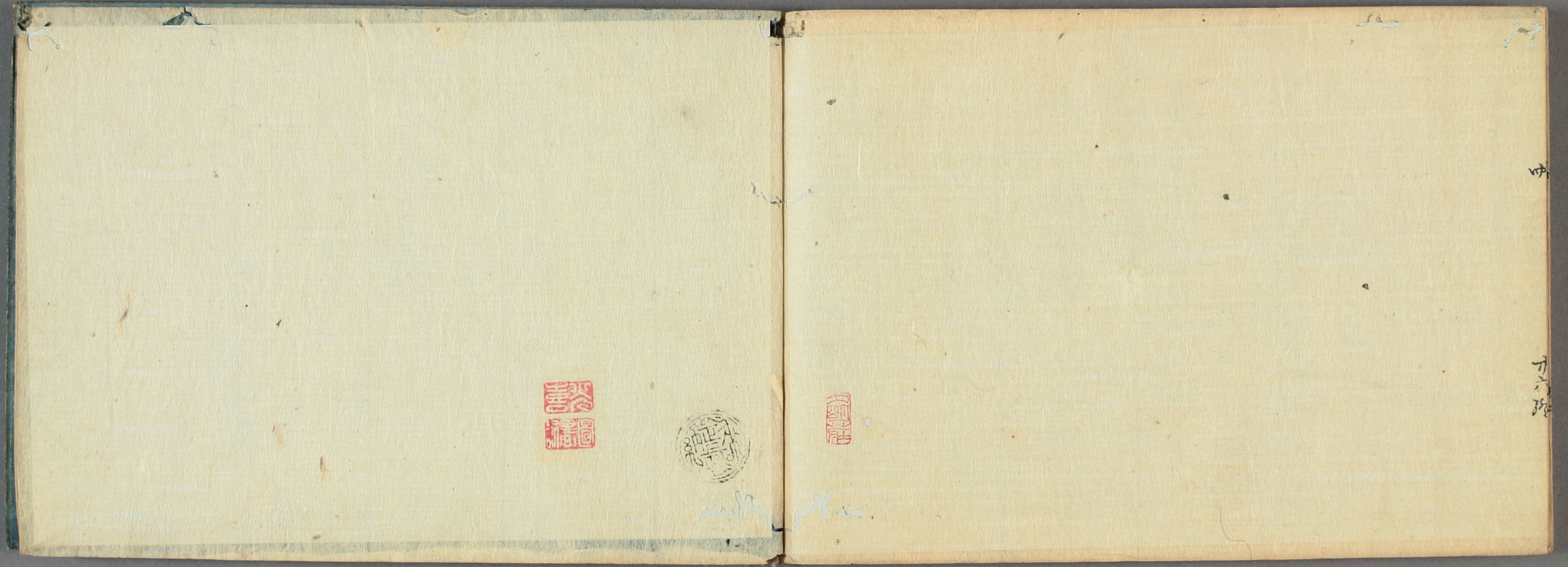












Two red square seals with Chinese characters in seal script, located on the lower left of the left page.

A circular red stamp with Chinese characters in seal script, located on the lower center of the left page.

A small red square seal with Chinese characters in seal script, located on the lower left of the right page.

Small handwritten mark on the right edge of the right page.

Small handwritten mark on the right edge of the right page.



